

2014(仏暦2557)年 秋(10月)号 (第92号)

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派
万行寺 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾461-1
電話 0267-67-2460



■住職法話

御恩「おかげさま」の生活

■～結ぶ絆から、広がるご縁へ～ ごえん

■本願寺の本

65歳からの仏教

■お知らせ、編集後記

Photo

秋深まり、紅葉は見頃です。今年は、気候に恵まれたのか、色づきが良い感じがします。思わず車を停めてカメラを向けたくなります。

住職 法話

御恩「おかげさま」の生活

終わりの「お知らせ」欄に
ふれましたが、先日、SBC
ラジオ出演のための収録を行
いました。ラジオですから、
顔が出るわけでもなく、後で
編集が出来るにもかかわら
ず、緊張して今は何を話した
か覚えていないような状況で
す。アナウンサーからの問い
かけに答えていくという流れ
でしたが、プロの編集の技に
期待をして聴かせていただき
ます。

会経験も何もかも未熟な私
が、お寺の拠点を佐久市に移
すなどということは、本当に
出来るのかと不安なことばか
りでした。転居をしてこの十
二月で七年になります。縁も
ゆかりも無い地で、先ず、お
寺を知っていたくことから
始まり、ご縁も徐々に広がり
つつあります。その中で、待
望の子も授かりました。

この「おかげさま」に関し
て、本願寺第八代蓮如上人
は、『蓮如上人御一代記聞書』
に仰っています。

万事につきて、よきことを
思ひつくるは御恩なり、悪
しきことだに思ひ捨てたる
は御恩なり。捨つるも取る
もいづれもいづれも御恩な
り

(現代語訳)

何ごとにおいても、善いこ
とを思いつくのは仏のおか
げであり、悪いことでも、
それを捨てるのができた
のは、仏のおかげである。
悪いことを捨てるのも、善
いことを取るのも、すべて
みな仏のおかげである。

物事を成し遂げることだけで
はなく、日々の暮らしそのも
の、何もかもが、御恩「おか
げさま」の中の生活であるとい
うことです。

私たちが称えるお念仏「南
無阿彌陀仏」は、そのすべて
において仏さまの御恩に感謝
させていただく「おかげさま」
のこころを意味します。決し
て救済や見返りを期待して何
かを願うような呪文などでは
ありません。

この度のラジオ出演のご縁
も、あらためて自らを振り返
る機会をいただき、「おかげ
さま」と感謝申し上げるばか
りです。



く結ぶ絆から、
広がる「縁へ」

「縁」

④ 過去から現在、現在から未来へとつながっていきます。

く受け継がれていく「縁」

吐く息が白くなるような寒い冬の日、暖かなお風呂に入ると、「あゝありがたいなあ」と思わず声が漏れることがあります。「ありがたい（有り難い）」とは、「有ることが難しいこと」、「つまり極めてまねなことに感謝をする言葉です。もちろん、お風呂に入ったときだけではありません。仕事や恋愛など日常生活の中

で直面するさまざまな困難の中で思わぬ支えに出あったとき、口に出さなくても私たちはありがたさを心から実感することがあります。

さて、お釈迦さまから始まった仏教の教えは、約2500年の時を経て、現代にまで受け継がれてきました。しかし、その歴史は決して平坦なものではありませんでした。中でも仏教が国家に受容された中国・日本などの東アジア

では、いくたびかの深刻な弾圧や迫害によって、その教えが途絶えそうになったことが多くの歴史書に記されています。そうした困難の中で仏法をなんとか伝えようとしてきた人々がいたからこそ、私たちは今、その教えに出あうことができているのです。

親鸞聖人は、法然聖人な

ど自らを導いてきた人々の教えを通して阿弥陀さまの救いに出あえたことをよるこび、「ご著作の最後に、次の言葉を引用されています。

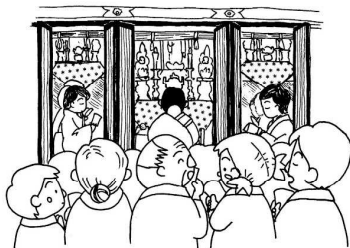
前に生まれるものは後のものを導き、後に生まれるものは前のものあとを尋ね、果てしなくつらなって途切れることのないようにしたいからである。

『教行信証』化巻

ここには、教えを伝えてくれた先人への感謝と共に、自らも途切れることなく人々に伝えていこうとする親鸞聖人の決意をうかがうことができます。過去から現在へと多くの困難の中で教えを伝えてきた方々の「有り難い」縁の積み重ねによって、今、私たちが阿弥陀さまの教えに出あうことができている

のです。私たちの手によって、未来へとその教えをつなげていきたいものです。

「編集・発行／浄土真宗本願寺派総合研究所 重点プロジェクト推進室」より



～本願寺の本～

65歳からの仏教

おとなのための浄土真宗入門
本願寺出版社 編集 1,296円(税込)

65歳は、今までの人生を振り返り、これからの生き方を考える分岐点です。そして、誰しも平等に訪れる「死」を意識する歳でもあります。

本書は、65歳から「死を迎える」までの人生の拠りどころを、「仏教(浄土真宗)」に求めたいという方のための、仏教の入門書です。

釈尊や親鸞聖人の生涯、そして、実際に仏教と出会い人生が変わった方々の体験を通して、きっとあたらしい生き方のヒントが見つかるでしょう。(本願寺出版社HPより)



お知らせ

長野の地方局、信越放送SBCラジオで、毎週日曜日の朝8時5分から15分間「おはよう住職さん信州の寺めぐり」という番組が放送されています。

この番組に出演しました。放送予定は、この11月9日、16日、23日と3週にわたって放送されます。お寺の拠点を佐久市に移した時の話題を中心に、今、私の思うところをお話しさせて頂きました。(11月16日は8時30分からに変更のようです。)

編集後記

本紙、三ページの「ごえん」の連載企画が、本願寺のホームページ内で実践運動の取り組みとして紹介されました。◆皆さまに、ただ冊子を配るだけではなく、寺報に少しづつ連載してご縁のを知ってもらおうとした企画が取り上げられました。「実践運動 万行寺」で検索してみてください。◆
このところ続けて、公にお寺の活動を紹介していただくご縁がありました。少しでも、万行寺という浄土真宗のお寺が佐久市にあることをお伝え出来たらと願うところです。

